

2つの規範意識が炎上加担傾向に与える影響

田村 光希

インターネットが急速に発達するにつれて、炎上（「ある人物や企業が発信した内容や行った行為について、ソーシャルメディアに批判的なコメントが殺到する現象」（田中・山口，2016））という現象が盛んに見られるようになった。この炎上に加担する者の特性として様々なものがあるが、本研究では規範意識に注目した。規範意識と炎上加担傾向の関係は吉野（2018）によって検討された。本研究ではこれを発展させ、規範意識を「自分に適用する規範意識（自己規範）」と「他人に適用する規範意識（他者規範）」に分類し、これらと炎上加担傾向の関係について検討した。仮説は「自己規範が低く他者規範が高いと炎上加担傾向は強い」とした。

本研究ではクラウドソーシングサイトを利用して、2つの調査を行った。あらかじめ、実際の炎上事例を基に6つの炎上事例を作成した。その上で、炎上事例の評価を行うための調査1と、自己規範・他者規範と各事例における炎上加担傾向を測定して仮説を検証するための調査2を行った。

まず、相関分析を行ったが、自己規範と他者規範の間に有意な相関はみられなかった。そのため、本研究における規範意識の分類の意義が示された。その後、調査2の回答を基に、仮説について検討した。自己規範・他者規範とその交互作用を説明変数、全事例を合わせた炎上加担傾向を目的変数として、重回帰分析を行った。その結果、他者規範が高いと炎上加担傾向が強いことが示唆された一方で、自己規範の影響は示唆されなかった。すなわち、仮説は支持されなかった。

加えて、調査1の結果などを基に探索的な分析をいくつか行ったが、他者規範の効果は仮説通りであったのに対して、自己規範の効果は仮説と一致しなかった。

他者規範については、筆者の仮説の根拠である「他人の投稿を悪く感じた人が炎上に加担する」ことの妥当性が示された。一方、自己規範に関しては「炎上加担ははじめに近く、するべきではない」という規範意識の存在を根拠として仮説を立てていたが、仮説は支持されなかった。その理由として、上記の規範意識が十分に浸透していないことが考えられた。

本研究の改善すべき点として、規範意識と炎上加担傾向の関係を探る際に「最初からTwitterでリプライをしないと決めている」人を調査対象から除外する必要がある。今後、「炎上加担はすべきでない」という規範意識の存在の有無について検討し、その上で自己規範と炎上加担傾向の関係について改めて論じる必要がある。（社会心理学）